発行:2015年9月　ニュースレターNo78. WEB版　No3

The Japan Academy of Midwifery Newsletter No.78

一般社団法人
日本助産学会ニュースレター

発行所　一般社団法人 日本助産学会
〒170-0002
東京都豊島区巣鴨 1-24-1
第 2 ユニオンビル 4F　株式会社ガリレオ
学会業務情報センター内
TEL:03-5981-9826　FAX:03-5981-9852
E-mail:g019jam-mng@ml.gakkai.ne.jp
代表者　高田　昌代

第 30 回日本助産学会学術集会(30th Japan Academy of Midwifery 2016 KYOTO)のご案内

第 30 回日本助産学会学術集会会長
我部山キヨ子(京都大学大学院)

1987 年 3 月 15 日に第 1 回日本助産学会学術集会が開催されてから，はや 30 年が経過するに至りました。この間わが国では，母子保健情勢は刻一刻と変化し，複雑かつ厳しさを増しています。このような中にあって，少子化対策・子育て支援対策等母子保健・女性保健・家族保健の最前線で働く助産師の役割は，極めて重要となっています。

この度，第 30 回日本助産学会学術集会を，2016 年 3 月 18 日～20 日に京都の地で開催することになりました。メインテーマは 30 周年記念**“助産学の今，そして未来へ”－最善・最新の助産学構築に向けて－**です。

1874 年（明治 7）の医制発布以降，我が国の産婆教育は東京，大阪，京都の三府を中心に開始されました。京都府では 1875 年に京都産婆会が組織され，毎月 1 回市内小学校において産婆学の講習を開設し，これが，我が国の産婆講習の嚆矢とされています（北村笑子他「京都における助産婦（産婆）教育の始まり」1989 年)。今回の 30 周年記念の学術集会においては，今までの助産学教育・実践・研究の集大成と今後どのような方向性に進めばよいのかをみんなで考え，議論していきたいと考えています。

プログラムの特徴：プレコングレスはクリニカルラダーの認証に必要な知識･技術に関連する産科出血や助産倫理，助産外来担当者ばかりでなく，今や日常の助産勤務でも必須となった超音波検査をテーマに，ワンランク上の知識・技術を身につける実践形式です。学生への企画は，助産技術に必要なツボ療法の知識･技術を学びながら学生相互の親交を深め，自己のキャリア構築を考えるプログラムにしています。学術集会はこれまでの助産学の歩みを前提として，現在の最前線の助産教育・実践・研究を，特別講演・教育講演・シンポジウム・ワークショップ・交流集会などを通して，行政・教育・臨床・関連領域など様々な分野でご活躍の先生方にご講演頂き，近未来の助産学の在り方や方向性を参加者とともに考えるプログラムとしました。さらに，グローバル社会の中でわが国の助産学の動向を見定め更なる発展に導くために，世界やアジアの助産学の動向に関するテーマも用意しました。加えて，30 周年記念式典・祝賀会にはできるだけ多くの参加者の皆様に楽しんで頂けるように，京都らしい試みも企画しています。

必ずや，参加者の皆様に多くの学びと出会いをしていただけるものと確信しております。

参加者の皆様には観光都市世界ランキング 1 位の京都においで頂き，学会の合間には世界文化遺産（合計 16 の寺院等が登録）の散策や世界無形文化遺産の和食も堪能して頂きたいと願っております。開催時期は梅の花と早いしだれ桜（京都府の花）の開花が重なる時期です。多くの助産師・助産師学生の皆様のご参加を企画委員･実行委員一同，心よりお待ちしております。

開催日時：**2016 年 3 月 18 日（金）　プレコングレス**
3 月 19 日（土）～20 日（日）　学術集会
3 月 19 日（土）　30 周年記念式典・祝賀会
開催会場：**京都大学百周年時計台記念館・総合研究８号館**
一般演題登録：2015 年 7 月 15 日（水）～9 月 15 日（火）を予定
事前参加登録：2015 年 10 月 1 日（木）～2016 年 1 月 15 日（金）を予定
参 加 費：**事前－**会員 10,000 円　非会員 12,000 円　学生 4,000 円
当日－会員 12,000 円　非会員 15,000 円　学生 5,000 円

第 30 回日本助産学会学術集会
～30 周年記念行事～

日時：2016 年 3 月 19 日（土）

・招聘講演：Bridget Lynch　元 ICM 会長
「世界の助産師教育・業務の動向と今後の展望」

日本助産学会30周年記念講演の演者として前ICM会長のBridget Lynch氏（McMaster大学, Canada）をお招きすることになりました。講演タイトルは、"Midwifery in the 21st Century: Achieving Our Vision"で、これからの助産のビジョンについてお話いただきます。次回のICMは、カナダのトロントで行われます。ICMアジア太平洋会議から引き続き、日本の助産を世界的な視野から考える貴重な機会となります。会員の皆様、是非、ご参加ください。　日本助産学会　副理事長　片岡弥恵子

・記念シンポジウム　「近未来の母子保健の発展のために」プログラム参照
・30 周年記念式典・祝賀会

記念式典・祝賀会

開始時間：　記念式典17:00～、祝賀会18:00～
会場：　時計台記念館

上演：狂言 茂山千五郎家「鬼瓦」

狂言とは、室町時代に『能』とともに形成された滑稽な芝居です。『狂言』は喜劇的なセリフ劇です。“古典芸能”というだけで何となく難しい物だと誤解されがちですが、『狂言』は観て・笑って楽しむものなので、難解なものではありません。まるでサーカスの道化師のような役割を担ってきた芸能なのです。

また『狂言』が笑いの題材としているのは、生活の中の失敗談であったり、夫婦喧嘩を笑ってみたりと、現代でも変らないものが笑いのテーマになっています。昔から伝わる普遍的な笑いの芸能が『狂言』です。

鬼瓦（おにがわら）曲名解説

裁判のため、長期に渡り京都に単身赴任の遠国の大名が、訴訟に勝ち、そのお礼お別れのため、五条の因幡堂のお薬師如来に太郎冠者を連れ立って参詣します。

今回の勝訴も、このお薬師如来のお蔭と感謝し、国許へ帰ってこの御堂を移し安置することにしました。二人は、姿の良い御堂の隅々を見てまわります。ふと、大屋根を見ると厳めしい鬼瓦が、目にとまりました。ところが、どうも大名には国許に残した女房の面にソックリに見えるのでした。

鬼瓦が妻とそっくりだと言いつつも、妻を思い出し早く会いたいと、大泣きをする大名が、なんとも狂言的で、小品ながら演者にとっては、無類の難曲とされています。

室町時代の“新喜劇”ともいわれている『狂言』です。
今回は、30 周年記念に合った楽しい演目をしてくださいます。
ぜひ“御笑納”ください。

第 30 回日本助産学会学術集会でお待ちしております。

第 30 回日本助産学会学術集会プログラム
～2016 年 3 月 18 日（金）～

プレコングレス

【明日から役立つ、ワンランク上の助産診断・助産技術・研究能力を獲得しよう】

プレコングレス１　江川晴人　独立法人国立医療センター　助産師外来で役立つ超音波診断～理論と実際～

プレコングレス２　近藤英治　京都大学医学部産婦人科講師
京都プロトコルで学ぶ産科出血への対応～これができれば自信がもてる～

プレコングレス３　安藤広子　日本赤十字秋田看護大学学長　助産実践と倫理

プレコングレス４　全国助産師学生交流集会　「助産師学生の輪を広げよう」（仮題）
田口玲奈（明治国際医療大学）による助産技術に応用できるツボ療法の実技！

～2016 年 3 月 19 日（土）・20 日（日）～

会長講演　我部山キヨ子　未来の助産学を創造する－助産師教育・研究の変革と新たな展開

特別講演　山極寿一　京都大学総長　ゴリラにみる親子関係から学ぶ

市民公開講座　高橋拓児　料理家　味覚は新生時期に作られる

招聘講演　Bridget Lynch　元 ICM 会長　世界の助産師業務・教育の動向と今後の展望

教育講演

教育講演Ⅰ　佐々木敏　東京大学大学院教授　エビデンスを作るための疫学研究手法

教育講演Ⅱ　明和政子　京都大学大学院教授　赤ちゃんの泣き声と神経発達

教育講演Ⅲ　森谷敏夫　京都大学大学院教授　女性の肥満と健康

シンポジウム

シンポジウム１　近未来の母子保健の発展のために

・一瀬篤　厚生労働省母子保健課長　近未来の母子保健行政の改革と構築（仮）
・文部科学省（医学高等教育局）　近未来の医学・助産師教育の改革と構築（仮）
・藤井知行　日本産婦人科学会理事長　快適で安全な妊娠･出産のために
・海野信也　日本周産期・新生児医学会理事長 産婦人科医療改革グランドデザイン
・高田昌代　日本助産学会理事長　日本助産学会のグランドデザイン案

シンポジウム２　妊娠期から始まる特別な事情を抱える親に対する支援

・中野絹子　京都第一赤十字病院師長　社会的ハイリスク事例の受け入れと地域との連携
・西　孝子　社会福祉法人積慶園　行政との連携による妊娠期からの里親支援事業「青い鳥」
・木本　努　特定非営利活動法人京都いえのこと勉強会
父子家庭の現状と課題－代表取締役主夫でした！
・高嶋愛里　多文化共生センターきょうと
日本で妊娠出産育児をする外国人の現状・課題とその支援

シンポジウム３　妊娠出産の可能性と限界への戦略

・塩谷 雅英　英ウィメンズクリニック理事長　生物学的視点からみた妊娠出産の可能性
・有馬牧子　東京医科歯科大学特任助教　社会医学的視点から妊娠出産の限界をどう教えるか
・宮本恭子　薬膳クッキングスタジオ主宰・管理栄養士　実践例：妊孕力を高める食事と食事指導
・秋山寛子　京都府医師会看護助産学校　実践例：妊娠出産の可能性と限界に助産師はどう関わるのか

シンポジウム４　ウィメンズヘルスケアの視点から考える妊娠糖尿病管理

・荒田尚子　国立成育医療研究センター医長　内科医が行う妊娠を契機にした GDM 妊婦の妊娠期から産後までのアプローチ
・高橋久子　杏林大学医学部付属病院　GDM 妊婦に対する当院の取り組み
・伊藤由実子　筑波大学附属病院　GDM 妊婦に対する当院の取り組み
・幣　憲一郎　京都大学医学部附属病院　GDM 妊婦に対する栄養管理の実際

シンポジウム５　産科医療補償制度　～再発防止における取組み～

・石渡　勇　石渡産婦人科病院院長
・小林　廉毅　東京大学大学院教授
・上田　茂　日本医療機能評価機構理事
・村上　明美　神奈川県立保健福祉大学教授

ワークショップ

ワークショップ１　NICU 児の看護の最前線

・河井昌彦　京都大学小児科准教授　赤ちゃんの神経発達と痛み
・小谷志穂　大阪府立母子保健総合医療センター　当院における痛みの緩和ケアの実際

・緒方あかね　京都第一赤十字病院　NICU からの虐待防止

ワークショップ２　量的研究の陥りやすい罠と改善策

・中村幸代　横浜市立大学医学部看護学科教授
・中川有加　静岡県立大学看護学部准教授
・志村千鶴子　創価大学看護学部准教授

ワークショップ３　質的研究の陥りやすい罠と改善策

・谷津裕子　日本赤十字看護大学看護学部教授
・久保幸代　亀田医療大学看護学部講師
・蛭田明子　聖路加国際大学看護学部助教

交流集会

交流集会１　アジアにおける助産師教育ネットワーク作り

・橋本麻由美　国立研究開発法人国立国際医療研究センター　国際医療協力局
・アジアの助産師（交渉中）
・コメンテーター　小浜正子　日本大学文理学部教授(中国近現代社会史・ジェンダー史)

交流集会２　妊産婦の敵！冷え症の「実践の知」と「科学の知」の融合

・中村幸代　横浜市立大学教授「科学の知」: 研究知見に基づいた妊婦の冷え症
・永森久美子　聖路加国際大学・聖路加産科クリニック
「実践の知」: エビデンスに基づいた産科クリニックでの冷え症ケアの実際
・毛利多恵子　毛利助産所所長「実践の知」: 助産院で冷え症ケアの具体的な支援と効果

交流集会３　助産業務ガイドラインを院内助産で活用しよう

・島田真理恵　上智大学看護学部教授
・葛西圭子　日本助産師会専務理事
・安達久美子　首都大学東京看護学部教授

交流集会４　助産実践能力習熟段階（クリニカルラダー）レベルⅢ認証制度に関する動向

・堀内成子　日本助産評価機構理事長
・高田昌代　日本助産実践能力推進会議会長
・福井トシ子　日本看護協会常任理事

2015.9.1 現在の予定です。演題等は変更する可能性があります。

ICM アジア太平洋地域会議・助産学術集会　実施報告（概要）

ICM－APRC　実行委員長　福井トシ子

１. 会期及び会場

○会期: 平成 27 年 7 月 20 日(月・祝)・21 日(火)・22 日(水)　会場：パシフィコ横浜

２. 後援数及び当日運営実施体制

○厚生労働省、文部科学省等、47 都道府県看護協会、47 都道府県助産師会、全国助産師教育協議会等 144 の団体に後援いただいた。

○当日運営を、助産師学生ボランティア 125 名、協力員 42 名(JNA21 名、JMA8 名、JAM13 名)、実行委員 22 名(JNA11 名、JMA5 名、JAM6 名)、運営会社 16 名、合計 205 名の体制で運営した。

○助産師学生ボランティア参加校は、表 1。

３. 参加者数

○事前登録による参加 2603 名(国内 2279 名、海外 324 名)と当日登録による参加 603 名(国内 557 名、海外 46 名)、合計 3206 名の参加があった。

○助産師学生国内 702 名、海外 9 名。国内大学院生 208 名、海外 11 名。

○参加者数の詳細は、表 2 である。

表１．助産師学生ボランティア参加校

NO.	学校名(日)
1	茨城県立医療大学　助産学専攻科
2	大分県立看護科学大学
3	神奈川県立保健福祉大学　保健福祉学部　看護学科
4	県立広島大学保健福祉研究科
5	国際医療福祉大学大学院　助産学分野
6	首都大学東京　助産学専攻科
7	昭和大学　助産学専攻科
8	聖隷クリストファー大学　助産学専攻科
9	聖路加国際大学大学院
10	高崎健康福祉大学大学院　保健福祉学研究科
11	中林病院助産師学院
12	東京医療福祉大学助産学専攻科、大学院
13	東邦大学大学院
14	鳥取大学医学部　保健学科
15	浜松医科大学
16	北海道大学大学院保健科学院

表2. 第11回ICM-APRC参加者数

国内	事前登録	一般	1,782	2,279
		助産師学生(団体)	466	
		大学院生(団体)	31	
	当日登録	一般	51	557
		助産師学生	236	
		大学院生	177	
		1日参加登録	93	
海外	事前登録	一般	324	324
		助産師学生(団体)	0	
		大学院生(団体)	0	
	当日登録	一般	25	46
		助産師学生	9	
		大学院生	11	
		1日参加登録	1	
			合計	3,206

４．参加国

○事前登録では 33 か国であったが、4 か国(イラン・ソロモン諸島・タンザニア・東チモール)から当日登録による参加があり、参加国は合計 37 か国であった。

○海外からの参加者数 324 名でのうち最も多かったのは、フィリピン 106 名、10 人以上の参加国は、インドネシア 47 名、オーストラリア 38 名、香港 22 名、ニュージーランド 12 名、インド 10 名であった。

○参加国の詳細は、表 3 である。

表３．参加国

No.	Country	Pre-Regi	Onsite	TOTAL
1	Afghanistan	8	1	9
2	Australia	38	7	45
3	Bangladesh	2		2
4	Belgium	1		1
5	Cambodia	2	1	3
6	Cameroon	5		5
7	China	8	10	18
8	Ghana	1		1
9	Hong Kong SAR, China	22		22
10	India	10	1	11
11	Indonesia	47	3	50
12	Italy	1		1
13	Iran		3	3
14	Korea, Rep.	2		2
15	Lao PDR	2		2
16	Malaysia	1		1
17	Mongolia	6		6
18	Myanmar	2	2	4
19	Netherlands	2		2
20	New Zealand	12	3	15
21	Nigeria	2		2
22	Pakistan	2	2	4
23	Papua New Guinea	3	2	5
24	Philippines	106	1	107
25	Solomon Island		1	1
26	South Africa	1		1
27	Spain	2		2
28	Switzerland	4	2	6
29	Taiwan	24		24
30	Tanzania		1	1
31	Thailand	1	1	2
32	Timor		1	1
33	United Kingdom	2	2	4
34	United States	2	2	4
35	Vietnam	2		2
36	Zimbabwe	1		1
37	Japan	2,279	557	2,836
		2,603	**603**	**3,206**
	Overseas	**324**	**46**	**370**
	Japan	**2,279**	**557**	**2,836**

５．演題登録数

○演題登録 692 題。発表演題 652 題
（口演英語 149 題、日本語 63 題。示説英語 246 題、日本語 194 題）

○演題登録 海外 167 題 日本 525 題

○国別演題登録数は、表 5 である。

○国内都道府県別演題登録数は、表 6 である。

６．プログラム実施状況と会場使用計画の変更

１）7 月 20 日の概要

○市民公開講座・横浜市次世代育成事業特別講演、自由集会(6)、ワークショップ(1)、パネルディスカッション(1)について計画通り実施。

○市民公開講座および次世代育成事業特別講演については、計画していたサテライト会場での LIVE 中継実施。

○自由集会について満席となった会場を急きょ変更。

２）7 月 21 日の概要

○フラッグセレモニー・開会式、会長講演、基調講演(1)、特別講演(2)、教育講演(1)、Regional Meeting、ワークショップ(3)、ランチョンセミナー(3)を計画通り実施。

○エクスカーション(施設見学)については 1 病院・5 助産所の見学を予定通り実施。参加者は、65 名(助産所：39 名、病院：26 名)であった。

○一般演題口演 20 セッション、示説 222 題掲示

３）7 月 22 日の概要

○シンポジウム(2)、特別講演(1)、ワークショップ(4)、クロックミップセミナー、ランチョンセミナー(3)、アワード受賞式を含む閉会式を計画通り実施した。

○ワークショップ 5 については、急きょ LIVE 中継を行った。

○一般演題口演 27 セッション、示説 218 題掲示

○閉会式は 30 分の予定だったが終了までに 1 時間要した。

○アワード受賞者一覧は、ICM－APRCHP へ掲載した。

７．出版社および報道機関の受付数

開催日	7 月 20 日(月)	7 月 21 日(火)	7 月 22 日(水)
社数及び人数	5 社　10 人	11 社　25 人	6 社　12 人

８．総括

○開会式のセレモニーは計画とおりに終了。開会式は、秋篠宮妃殿下はじめ、厚労省政務官、神奈川県副知事(知事代理)、横浜市長、日本産婦人科医会会長にご臨席いただきお言葉をいただいた。

○参加見込み人数を超えた参加者であったこと

から、いくつかの会場で参加者が入りきれない状況が発生し、急きょ LIVE 中継をする等の対応をした。

○「すべての妊産婦と赤ちゃんに助産師のケアを提供する」ために、アジア太平洋地域の助産師の交流と、多数の助産師学生の参加により今後の活動に期待をもつことができる国際学会となった。

○会場に入りきれないことによるご意見を多数いただいた。その他のご意見も含め最終報告書に掲載し、今後の国際会議開催への参考となるようにする。

ご参加いただきました皆様、さまざまご支援いただきました関係者の皆様に感謝申し上げます。

表 5. 国別演題登録数

	国名	英Oral			日Oral			英Poster			日Poster			Oral			Poster			計
		登録*	取下	不採択	登録*	取下	不採択	登録*	取下	不採択	登録*	取下	不採択	登録計*	取下計	不採択計	登録計*	取下計	不採択計	
1	Australia	27	5											27	5					**27**
2	Bangladesh	2												2						**2**
3	Cambodia	2												2						**2**
4	China	2						1						2			1			**3**
5	Ethiopia	1												1						**1**
6	Hong Kong	1						2						1			2			**3**
7	India	6												6						**6**
8	Indonesia	23	4					9		1				23	4		9		1	**32**
9	Iran, Islamic Republic of	1												1						**1**
10	**Japan**	**48**	**3**		**66**	**2**		**217**	**3**		**194**	**1**		**114**	**5**		**411**	**4**		**525**
11	Lao People's Democratic Repu	3	1											3	1					**3**
12	Malaysia	1												1						**1**
13	Myanmar	2												2						**2**
14	Nepal	1	1											1	1					**1**
15	New Zealand	7	1											7	1					**7**
16	Nigeria	2	1	1										2	1	1				**2**
17	Pakistan	7	1					1						7	1		1			**8**
18	Philippines	2						1		1				2			1		1	**3**
19	Poland	1	1											1	1					**1**
20	South Africa	2												2						**2**
21	Spain	1												1						**1**
22	Switzerland	9	1											9	1					**9**
23	Taiwan	15	3	1				23	3	3				15	3	1	23	3	3	**38**
24	Tanzania, United Republic of							1									1			**1**
25	Thailand	4	1											4	1					**4**
26	United Kingdom	2						2						2			2			**4**
27	United States	3	1											3	1					**3**
		175	**24**	**2**	**66**	**2**	**0**	**257**	**6**	**5**	**194**	**1**	**0**	**241**	**26**	**2**	**451**	**7**	**5**	**692**

登録カテゴリー別

	カテゴリー	英Oral			日Oral			英Poster			日Poster			Oral			Poster			計
		登録*	取下	不採択	登録*	取下	不採択	登録*	取下	不採択	登録*	取下	不採択	登録計*	取下計	不採択計	登録計*	取下計	不採択計	
1	Perinatal Care/周産期のケア	35	4		20			96	2		58			55	4		154	2		**209**
2	Neonatal Care/新生児のケア	4			2			11			13			6			24			**30**
3	Midwifery Management/助産	22	5		5			12	2		11			27	5		23	2		**50**
4	Midwifery Education/助産師	34	4		6			31		2	21			40	4		52		2	**92**
5	Women's Health/ウィメンズヘル	34	4		6			43	1		29			40	4		72	1		**112**
6	Community Health/地域母子	10	1	1	11	1		16	1	1	33	1		21	2	1	49	2	1	**70**
7	Global Health/国際保健	16	3		1			7			1			17	3		8			**25**
8	Others/その他	20	3	1	15	1		41		2	28			35	4	1	69		2	**104**
		175	**24**	**2**	**66**	**2**	**0**	**257**	**6**	**5**	**194**	**1**	**0**	**241**	**26**	**2**	**451**	**7**	**5**	**692**

*登録は取下げと不採択を含む

※英：英語登録／日：日本語登録

発表形式別

発表形式	抄録集掲載	取下**	発表
英Oral	165	16	149
日Oral	64	1	63
英Poster 1日目	124	0	124
英Poster 2日目	122	0	122
英Poster 計	246	0	246
日Poster 1日目	98	0	98
日Poster 2日目	97	1	96
日Poster 計	195	1	194
	670	**18**	**652**

**掲載確定前取下げ15題は含まれない

表６.国内都道府県別演題登録数

都道府県	計	都道府県	計	都道府県	計	都道府県	計
北海道	15	東京都	111	滋賀県	13	香川県	7
青森県	2	神奈川県	18	京都府	16	愛媛県	5
岩手県	1	新潟県	8	大阪府	25	高知県	12
宮城県	11	富山県	2	兵庫県	30	福岡県	24
秋田県	3	石川県	14	奈良県	6	佐賀県	4
山形県	2	福井県	4	和歌山県	2	長崎県	15
福島県	4	山梨県	4	鳥取県	6	熊本県	2
茨城県	7	長野県	6	島根県	5	大分県	5
栃木県	4	岐阜県	2	岡山県	12	宮崎県	3
群馬県	11	静岡県	8	広島県	12	鹿児島県	21
埼玉県	12	愛知県	9	山口県	2	沖縄県	13
千葉県	10	三重県	14	徳島県	3	合計	**525**

ＩＣＭ　アジア・太平洋地域会議・助産学術集会を終えて

日本助産学会　理事長　高田　昌代

第 11 回ＩＣＭ　アジア・太平洋地域会議・学術集会においては、本会会員の皆様をはじめ世界 37 か国から約 3200 名の助産師が集うことができました。開催期間中は、横浜の日本丸の帆が一層白く映える見事な日本晴れというお天気で、私たち助産師の前途を表しているかのようでした。

フラッグセレモニーに始まり、会場のあらゆるところで国際色豊かにディスカッションが繰り開かれました。登録演題も外国から 167 題、国内から 525 題と多く、内容も豊富で、質の高い意義深いものでした。日本の助産師の英語での発表演題も多く、世界に向かう日本助産師の力を垣間見ることができました。また、世界の動向として、ミレニアム開発目標、ＩＣＭのビジョン、ＷＨＯ・ＵＮＦＰＡの動向、ランセットに掲載されたエビデンス（JAM のニュースレターでご紹介しています）など多くの情報に触れることができたと思います。今回、会場から少し離れたところにあったのでご存じない方もいらっしゃると思いますが、お祈りの部屋が設定されていました。小さな出来事ことですが、その部屋の前にはいつも靴があり、異文化を感じるには十分でした。国や宗教、文化を尊重しあい、「すべての妊産婦と赤ちゃんへ助産師のケア」という同じ目標に向かっている助産師がいることを感じさせてくれました。

日本助産学会はその理念のもとに、「国際的組織に加盟し、助産に関するあらゆる報告と交流を促進する機能を持って助産の質を向上させる」活動を掲げています。今後も、助産師の質の向上のために国際に関する活動を推進し続けてまいります。

日本の助産師が手を取り合った 3 日間の大会

が、妊産婦と赤ちゃんへのケアに大きく繋がったことを会確信しています。最後になりましたが、ご支援、ご協力いただきました皆様に心から感謝申し上げます。

ICM アジア太平洋地域会議･助産学術集会　～日本助産学会の貢献～

日本助産学会　副理事長　片岡弥恵子

2015 年 7 月 20 日から 22 日に、パシフィコ横浜にて第 11 回 ICM アジア太平洋地域会議・助産学術集会が開催された。ICM アジア太平洋地域会議は、日本看護協会、日本助産師会、日本助産学会の 3 団体が主催となり、各団体からの準備委員会および実行委員会の構成員として様々な活動を行った。会長は、日本看護協会の坂本会長、副会長として本学会から高田理事長、日本助産師会から岡本会長がその任を担った。なお、本学会の国際委員会の委員メンバーは、実行委員やプレコングレスの企画など多くの役割を果たしてくださった。

実行委員会の中で本学会は、主にプログラム委員会を担当した。プログラム委員会は、まず初めに 3 日間の全体プログラム案の作成を行った。これは、最も重要なタスクであった。助産の最新トピックスは何か？国際学会に相応しいものはどれ？委員会では様々な角度から検討した。そして、実行委員会でのディスカッションを通して、主催３団体のそれぞれ得意分野のプログラムを組み入れることができ、魅力的なプログラムに仕上がったと自負している。次にプログラム委員会は、演題の査読とグループ分け、座長の決定を行った。演題数は、直接的に参加者数につながるため、プログラム委員のみならず、実行委員会でも注目されていた。少なかったらどうしようか... との心配をよそに、世界中から演題数はなんと 692 題も集まった。うれしい悲鳴ではあったが、これらの演題抄録の査読をどのように進めるのかという頭の痛い問題にぶつかった。そこで、まず査読のポイントを絞りこみ、ポイントごとに査読コメントの例（英語）を作成した。査読は短時間で終わらせるため、プログラム委員 12 名で手分けし行った。委員の必死の努力によって、査読をなんとか終えることができた。演題は、言語は日本と英語、形式は口演とポスターを選択できるように設定した。私たちの予測では、日本語の口演が多いだろうと考えたが、実際は英語のポスターが最も多かった。日本の助産師たちが、英語の抄録を書き、発表することにチャレンジしたことは、すばらしい成果であったと思う。続いて、プログラム委員会では、発表のグループ分けと座長を決める作業を行った。座長の依頼は、ほとんどの方から快諾をいただき、多くの助産師から支えられている実感を得た。その後も、査読後の修正の確認や演題取下げへの対応に追われたが、なんとか当日を迎えることができた。座長の方々は、当日の演題取下げや演者の遅刻という事態にも柔軟に対応していただき、本当に心強く感じた。

約２年の準備期間を経て、本学会は主催団体の一つとして様々な活動にて ICM アジア太平洋地域会議の成功に貢献できたのではないかと思う。多くの学会員の皆様から協力をいただき、心よりの感謝を述べたい。

ICM アジア太平洋地域会議･助産学術集会　～国際委員会企画～

日本助産学会　国際委員　嶋澤　恭子

経済発展が進みアジア諸国の中では、安全な母性を促進することが政策にも取り入れられつつある結果として助産師教育が注目されてきています。その際に 2011 年の ICM ダーバン大会で採択された“Global Standard for Basic Midwifery Education”は大変具体的な指針になっています。しかし、ICM Philosophy of Midwifery Care に基づく内容は、客観的評価が難しいです。背景にはアジア諸国の女性の地位や文化的要因の影響が考えられます。

第 11 回ＩＣＭアジア・太平洋地域会議・学術集会の自由集会では、委員長から「女性に寄り添う」ケアを如何に実践、教育するのかという問題提起を含めた趣旨が説明されました。続いて文化人類学者の松岡悦子氏から、アジア各国（インドネシア、韓国、モンゴル）の出産状況、さらにイギリスにおける助産師や出産政策の状況から女性の人権を守り、かつ女性中心のケアをどのように実現しようとしているのかという話題提供がありました。そのあと、フロアを交えて「女性に寄り添う」助産師教育の実現のための事例や工夫について活発な意見交換が行われました。開始直後から会場はあふれんばかりの人で床も埋め尽くされ、押し出された人は場外のモニターで視聴されるという状況の中で、研究者、ニュージーランドからの助産師、助産

師学生、助産教育者、病院勤務助産師、助産所助産師などの発言により、さらに会場は熱気に包まれました。

事前に参加者に配っていた千代紙や折り紙には「女性に寄り添う」ケアの具体例をたくさん書いていただきました。これをつなぎ合わせ成果として来年 3 月の日本助産学会学術集会では「女性に寄り添う」ケアをどのように助産師が体得、実践、教育している、あるいはしていけるのか、「アジアの助産教育ネットワーク」も視野に入れて、さらに知見を深める機会にしたいと思います。皆さんも是非このワークショップの話題にコミットメントしてくださるようお願いします。

会場の様子

平成 27 年度研修・教育委員会主催ワークショップ報告
「国際学会で英語プレゼンのコツ」

研修教育委員長　春名 めぐみ

日時：2015 年 7 月 4 日（土）14：00～16：00
会場：神戸国際会館 701 号室
参加者 43 名（会員 40 名、非会員 3 名）
講師：大田えりか先生
　　国立成育医療研究センター研究所
　　政策科学研究部　政策開発室長
　　コクラン日本事務局長

本ワークショップは、ICM アジア太平洋学会を目前に控えた動機づけが高まっている時期に開催しました。参加者の 9 割が ICM アジア太平洋学会に参加を予定していました。参加者の大多数がポスター発表を予定しており、口演発表、座長をつとめる予定の参加者もいました。以下にワークショップの内容のポイントをご紹介いたします。

■　英語での自己紹介・発言のしかた

・ICM を目前に英語力を高めるには時間がないので、定形句を A4 用紙 1 枚に準備しておきましょう。
・１回は英語で質問をするという宿題を自分に課して学会を盛り上げましょう。
・日本の助産師には、世界をリードする日本の助産を発信することとホストとしての自覚をもって ICM に臨むことが期待されるので、外国の方がいらしたら積極的に声をかけておもてなしをしましょう。特に会場で困っている外国の参加者がいたら、助けてあげましょう。
・学会はネットワークづくりの場なので、英語の名刺を準備し、会場で初めて会ったら自ら手を出して、握手と笑顔で挨拶して連絡先を交換してみましょう。
・自分の興味のある論文の著者をあらかじめ調べてプログラムを確認しておきましょう。

■　英語での Oral presentation

・英語ロジックは、日本語の起承転結のロジックとは異なります。日本語のように理由からではなく、結論を最初にいいましょう。
・今回の ICM の発表時間は 7 分なので、スライドは 7 枚ぐらいを目安に準備しましょう。一般的に 1 分 1 枚ぐらいです。
・最初に座長にお礼をいいます。
　Thank you Dr.○○.
　あるいはファーストネームなど
・まずは「つかみのひとこと」としてプレゼンのポイント（売り）を一言でいいましょう。
・話まっすぐ聴衆に視線を向けて姿勢をよく話しましょう。
・ポインターは右手で持ち、ぐるぐる回さず「ピシッ」と注目してほしいスライドの部分に当てましょう。
・発表は暗記して、原稿を見ずに聴衆をみるとよいでしょう。原稿があると伝わりにくくなることがありますが、最初は原稿を作って暗記して何度も練習しましょう。原稿を読む場合は、顔をあげて聴衆の方をみる間をとりましょう。
・プレゼンテーションの中で重要なポイントを１、２カ所入れましょう。
　The most important point here is～など
・要約する際は、要点はわかりやすく 3 つ（3 の法則）にまとめましょう。

■ 英語での Poster presentation

・国際学会では、ただポスターの前に立っているだけでは、人がこないこともあります。“Welcome”と話しかけたり、呼び込みや連絡先の入ったポスターのコピー（A4１枚）を配ったりするぐらいの積極性を持ちましょう。

■ 質疑応答サバイバル術

・ポジティブな言い回しを覚えておき、どの質問にもポジティブに受け答えしましょう。

・聞き取れなかった場合は、繰り返してもらう、シンプルにしてもらう、自分の言葉で繰り返すなどしましょう。

<繰り返しもらう>

Sorry, could you repeat your question, please?

Sorry, could you say that again, please?

Sorry, could you speak a little more slowly, please?

<シンプルにしてもらう>

Sorry, could you simplify your question a little, please?

<自分の言葉で繰り返す>

So you're asking if ○○○○○○○○?

You mean “Does quality of sleeping affect the results?”

・関連性のない質問には、失礼のないよう方向転換しましょう。

That's an interesting question, but we haven't looked at that in our research.

・回答を知らない場合は、正直に知らないことを認めましょう。

That's a good question. But I'm afraid I don't know the answer.

That's a good question. I don't know, but I think that work may already have been done on it.

・回答を正確に覚えていない場合、後で質問者に連絡すると提案しましょう。

I'm pretty sure that work has been done on that but I can't remember the details of the study right now. Can I get back to you on that later?

座長の司会の流れについては、座長は時間管理が主な役割で、挨拶、進行、終わりの言葉について学びました。ICM に楽しんで参加するためにも、何事も準備が大切！　伝えたいことを大切に！　というメッセージをいただきました。参加者からのアンケートからも、大田先生の具体的でわかりやすい講義をうけて、ICM に向けて、少し発表や参加者とのコミュニケーションを積極的にとっていこうというモチベーションを高める機会となったことがうかがえました。

・Ｑ＆Ａ

Q: Limitation はスライドに入れる必要がありますか？

A: Option になるので必ずしもいれなくてよい。

Q: 発表の締めの一言はありますか？

A: Thank you for listening to my presentation. などシンプルに。

大田先生からのお勧めの参考書です。

・Philip Hawke & Robert F. Whittier. (2011). 日本人研究者のための絶対できる英語プレゼンテーション. (福田忍. Trans.). 東京:羊土社.

・佐藤雅昭. (2013). 国際学会発表　世界に伝わる情報発信術指南 流れがわかる英語プレゼンテーション How To. 東京:メディカルレビュー社.

・Langham C.S. (2007). 国際学会 English 挨拶・口演・発表・質問・座長進行. 東京:医歯薬出版.

世界保健機関声明「施設分娩中の軽蔑と虐待の予防と撲滅」の翻訳にあたって

聖路加国際大学　アジア・アフリカ助産研究センター
新福洋子／堀内成子

聖路加国際大学アジア・アフリカ助産研究センターでは、2010 年にタンザニア、ムヒンビリ健康科学大学と姉妹校提携を結び、2011 年より日本学術振興会、アジア・アフリカ学術基盤形成事業を受給し、タンザニアの助産師たちとの研究教育交流活動を続けてきました。本学の教員や大学院生がタンザニアに訪問し、視察やプレゼンテーションを行ったり、先方の教員や臨床助産師を日本に招聘し、授業への参加やプレゼンテーションを行ったりすることで、お互いの教育や実践について共有し、共に立ち上げたタンザニア初の助産学修士課程でも教鞭を取らせてもらっています。また、母子保健改善を目指し、共同研究を立ち上げて取り組んでいます。2015 年には新しく日本学術振興会、研究拠点形成事業の受給を受け、活動をタンザニアのみならずインドネシアにも広げています。

それらの活動を通し、女性たちが施設分娩の中で十分に出産ケアを受けられていない状況を目の当たりにしてきました。特に農村地区では多産であることで病院に産婦が大勢集まり、妊娠にマラリアやHIV/AIDS、子癇前症など日本ではめずらしい感染症や合併症が重なり、限られた人数の助産師が、診察と分娩、異常時の搬送や処置に追われ、日本で助産師が大切にしている「正常産のケア」を提供する余裕がなく、病棟には陣痛が強まり助けを呼ぶ声が、誰にも届かずに響き続けていました。

2011年に日本に招聘したタンザニアの助産師に対し、毛利多恵子先生がブラジルで行った「人間的な出産（Humanized Childbirth)」プロジェクトのご経験を講義くださる機会があり、助産師が「タンザニアでもぜひ取り入れたい」と発言したことから、2012年にタンザニアで「人間的な出産」を主題にしたセミナーを開催しました。本学から堀内成子教授、江藤宏美教授、長松康子准教授と私に加え、3 名の大学院生がスタッフとして渡航しました。現地で 120 名以上の助産師の参加を得て、日本の助産師が行っている、産婦に寄り添い必要なアセスメント・判断を行って提供するケア、またエビデンスに基づいた実践について 2 日間のプレゼンテーション、小グループディスカッション、参加者の発表を行ったことで、助産師たちが自らのケアや出産環境に関する意識を変化させていく様子が感じられました。翌年訪問した際、病棟にカーテンが新しく取り付けられるなど、助産師たちによる環境整備が少しずつ行われていました。

私自身も博士論文でタンザニア農村地区の出産経験を研究し、ずっと問題意識を抱いているトピックだったのですが、2014年9月に自分の論文を引用している新しい論文を見つけました。McMahon et al. (2014) “Experiences of and responses to disrespectful maternity care and abuse during childbirth; a qualitative study with women and men in Morogoro Region, Tanzania” という論文で、私たちも問題視していたケアの欠如が “disrespectful and abuse during childbirth” である、という強いメッセージが印象的で、改めて問題意識を強くしました。ちょうどこの論文が発表されたころ、世界保健機関(WHO) からも “Prevention and elimination of disrespect and abuse during childbirth” が発表された知らせが届きました。「この声明を承認したい機関は連絡を」と書かれてあったため、代表の堀内教授と相談し、本センターの名前で連絡を取ったことから、まずこの声明の英語版に本センターの名前が掲載されました。

この声明の大切さを強く感じていたことから、どうにか名前掲載以外にも貢献がしたいと思い、本学が WHO のコラボレーティングセンターに認定されていたことから、その活動としてこの声明の日本語訳を申し出たところ、WHO からの許可が降りたため、早速取り掛かりました。その際に間に入ってくださった元 WHO 職員の小原ひろみ先生には大変お世話になりました。

あくまで WHO の声明として WHO のホームページでの掲載を考えたため、できる限り直訳をすることとし、内容上どうしても表現が固くなり、意味が通じにくいところは多少語彙の選択を工夫し、それを現 WHO 職員の永井真理先生、本センター代表堀内教授に確認をお願いして正した後、WHO に送りました。そして今年の 7 月 1 日に、担当官から WHO のホームページに掲載された連絡を受けました。WHO の声明を世に出す一助ができたことに大変光栄な気持ちでした。これをネットで拡散したところ、普段こうした問題に目を向けていなかったという日本の友人たちからも「読みました。大切な問題ですね。」といった声が多数届き、日本語訳にしたことで、広く情報が伝わることを即座に体験しました。

以下が日本語版「施設分娩中の軽蔑と虐待の予防と撲滅」の一部抜粋です。

「世界中で、医療施設での出産中に、多くの女性が軽蔑的で虐待的な扱いを経験している。そのような扱いは、尊重されたケアを受ける女性の権利を侵害するだけでなく、彼女たちの人生、健康、身体的な尊厳への権利、そして差別からの自由をも脅かす可能性がある。この声明は、この重要な公衆衛生と人権の問題に、より多くの行動、対話、研究とアドボカシーを求めるものである。」(掲載 HP: http://www.who.int/reproductivehealth/topics/maternal_perinatal/statement-childbirth/en/)

日本の助産師たちにとっては当たり前となっている心のこもったケアが、海外に出ると当たり前ではない現状があり、それを変えていくのは簡単なことではありません。ただ、WHO 声明が出されるなど、変えていく土壌が少しずつできていることを感じています。小さな一歩として、まずはこうした現状に関する情報を届け、必要なサポートを得ながら、現地の助産師と手を取り合って、現状を変えていくための研究教育活動を続けて行きたいと思います。

２０１６年度　日本助産学会　研究助成公募

学術振興委員会委員長　葉久 真理

応募締切日：2015 年 11 月 20 日（金）必着

日本助産学会では、本学会の会則に基づき、助産学に関する研究を推進するために研究費用の一部を助成し、助産学の発展をはかり、わが国の母子保健に寄与することを目的に研究助成を行っております。

2016（平成 28）年度の研究助成申請は、以下の要領にしたがって手続き下さいますようお願いいたします。

応募資格

日本助産学会員として２年以上加入している会員であること

研究分担者は会員であること（加入年数は問わない）

申請書の請求

日本助産学会ホームページ（http://square.umin.ac.jp/jam/）「研究助成案内」から【申請書】をダウンロードし、必要事項を記入の上、事務局宛にご送付ください。

研究課題

学術奨励研究

助産学の発展、助産実践の改善と開発、その他母子保健領域の学術的研究等。

助成額は、30 万円以内/１件。

３件程度採択

助成者の決定および通知

助産学会理事会で審議、採否決定後、主研究者に通知いたします。

応募に関しての留意点

申請書は、楷書（パソコン等での作成を推奨）でご記入ください。

申請書並びに別刷り、参考資料等の提出に関しましては、ホームページの助成実施要項をよくご確認ください。

提出された申請書は返却いたしませんので予めご了承ください。

最終に提出された報告書は、原則として日本助産学会のホームページに掲載する予定です。

【問合せ先】

一般社団法人日本助産学会事務局
〒170-0002　東京都豊島区巣鴨 1-24-1
第２ユニオンビル 4F
㈱ガリレオ 学会業務情報センター内
TEL：03-5981-9826　FAX：03-5981-9852
E-mail：g019jam-mng@ml.gakkai.ne.jp

多数の方の応募をお待ちしております！

ICM 募金の御礼と継続支援のお願い

一般社団法人日本助産学会事務局

日頃から、皆様方の暖かいご支援とご協力をいただき感謝申し上げます。今回は徳島県「国際助産師の日」事業促進会様から、募金のご協力をいただきありがとうございました。

ICM 支援のための募金を常時受付けております。引き続きのご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

ICM 募金振込先

☆ICMスポンサー・ア・ミッドワイフ（国際基金）☆
発展途上国の助産師の参加用援助としての募金です。
一口 2,000円
振替口座番号:00190－8－710931
加 入 者 名 :日本助産学会国際基金

☆ ICMセーフマザーフッド基金 ☆
世界で妊婦死亡率・罹病率が最も高い地域における助産知識の発展を支援する募金です。一口 1,000円
振替口座番号:00240—8—6818
加 入 者 名:日本助産学会ICMセーフマザーフッド基金

事務局からのお知らせ

一般社団法人日本助産学会事務局

今年度平成２７年度会費（10,000 円）納入について

本学会は、皆様の会費をもとに運営しております。円滑な事業推進のため、会費納入がまだお済でない方は早急に下記まで、氏名・会員番号等を通知の上、お振込みをお願いします。なお、今年度は代議員および理事選挙の年です。６月末までの会費納入者が選挙人対象者となりますのでご了承ください。

・郵便振込：００１２０－２－　７６３５４０　加入者名：一般社団法人日本助産学会

通信欄に会員番号と納入年度を明記

・銀行振込：ゆうちょ銀行（9900）　〇一九(ｾﾞﾛｲﾁｷｭｳ)店（019）（当座）０７６３５４０

一般社団法人日本助産学会　（ｼｬ）ﾆﾎﾝｼﾞｮｻﾝｶﾞｯｶｲ）

氏名と会員番号を通知してください

学会誌投稿（共同研究者含）、学術集会演題応募（共同研究者含）、研究助成応募（研究代表者）等は、会員で該当年度の会費納入済みが条件になります。応募される場合は、お早めに会費納入をお済ませの上、お申し込み下さい。また、会費納入が遅れますと学会の諸情報の送付が滞りますのでご注意下さい。

なお、納入会費の領収書発行に関してはお手数ですが事務局宛にメールか FAX でご請求ください。

会費納入･会員番号等に関してご不明な時は、事務局までお問い合わせ下さい。

変更届について

住所等の変更に関しては、オンライン会員情報管理システム(詳細は下記）で変更手続きが出来ますのでどうぞご利用下さい。以下のホームページから ID(会員番号)とパスワードをご入力の上、ログインいただき、ご希望の手続きを行ってください。

オンライン会員情報管理システム：

https://service.gakkai.ne.jp/society-member/auth/JAM

ID･パスワードがご不明の場合は事務局宛お問い合せ下さい。

オンライン会員情報管理システムがご利用になれない場合は、変更届の書式は問いませんが必ず書面（E-mail・FAX・はがき等）に明記して、その都度お早めにお知らせください。本学会ホームページからも「変更・退会届」の書式がダウンロードできますのでご利用ください。

変更届は必ずお出しください。学会誌等が届かないような場合は事務局までご一報ください。

退会届について

退会届の書式は問いませんが、書面（E-mail・FAX・はがき等）でお知らせください。本学会ホームページからも「変更・退会届」の書式がダウンロードできますのでご利用ください。

＊次年度から退会希望の方は、必ず１月末までに退会届け出をお願します。退会連絡がない限り会員継続となり、年会費をお納めいただくことになります。特に口座引き落としご利用の方で退会希望される方はご注意いただきたいのですが、会費引き落とし後の退会の会費についてはお返しできません。ただし会費納入年度の学会誌等は送付しますので、十分にご理解いただきたくよろしくお願い申し上げます。

学会誌バックナンバー等の販売のお知らせ

日本助産学会誌バックナンバー第 20～27 巻は 2,500 円ただし 26 巻 2 号別冊の[エビデンスに基づく助産ガイドライン]は 3,000 円、28 巻は 3,500 円(各 1 部)。日本助産学会暦年記録は、1 部 3,000 円。送料は申込者負担です。

在庫に限りがありますのでご希望に添えない場合はご容赦願います。

申込み方法は、本学会ホームページから申込書をダウンロードして希望を記入の上事務局宛に E-mail 添付送信するか、FAX してください。

一般社団法人日本助産学会事務局

〒170-0002　東京都豊島区巣鴨 1-24-1 第２ユニオンビル 4F

株式会社ガリレオ　学会業務情報センター内

TEL:03-5981-9826　FAX:03-5981-9852

E-mail:　g019jam-mng@ml.gakkai.ne.jp

ホームページ：　http://square.umin.ac.jp/jam/

※日本助産学会事務局は 2014 年 6 月 23 日に移転しました。

円滑な事業推進のため、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。